

依田林業新聞

森林保全とは何かを見つめ直す

森林を守り、育てるスケールの大きさ

林業は森林を「守る」だけでなく、「育てる」役割も求められます。樹木の種類にもよりますが、苗木の状態から主伐できる樹木に育つまで約50年もの年月がかかると言われています。未来の森林環境を作り上げるという意味でも、林業はスケールの大きな仕事と言えるでしょう。

チームワークの重要性

林業は危険を伴う作業も多く、効率的に作業を行うためにも常にチームワークが求められます。現場で声をかけあったり、業務の中でノウハウを継承することで、団結力も高まっていくでしょう。

安全を学ぶ・危険に学ぶ

安全とは「許容できない危険がないこと」つまり、「安全を学ぶ」は「危険に学ぶ」と言っても過言ではありません。そして、危険に学ぶ目的は、「危険感受性」を高めること、「危険予知能力」を身に着けることでもあります。

林業の現場でも、さまざまな危険を具体的に「見て・聞いて・感じる」という作業者の基本的な働きを通じて、危険予知能力を高める必要が大事です。

それは単なる知識としてではなく、体験・経験を通じて学ぶことによって、安全意識の向上を図るとともに、技術・技能の伝承に対する効果も期待できるのではないのでしょうか。とは言え、単に現場で「危ない体験」をすればよいのではなく、相手の立場になり、作業によって、どのような危険かを感じ取って欲しいかを、自分自身がよく把握しておく必要があります。高度な技を求めることに、それ程意味はありません。「体験」を通じて何を学ぶか「作業中の危険について、どんな災害が起こり得るか」「イメージを描く」「危険に気付くこと」ができることが、大事ではないでしょうか。

緊急時における対応

緊急連絡では、110番と119番があります。どちらも連動しているので、問題ありません。報告内容をしっかり伝えることが大切です。林業は危険を伴う仕事でもある為、報告・連絡・相談をしっかり行い、仕事に対しても私生活でも頭に入れておくことで、いざという時に役立てましょう。

発行所

(有) 依田林業
塩山事務所
総務部

心に響く一言
上手いかない時間は、助走の時間
助走が長いほど、遠くまで跳んでいける



報告 指示命令されたことに対して経緯や結果を知らせる

連絡 進行中の業務について情報共有をする

相談 判断に悩む場合、アドバイスを求める

- 場所(緯度・経度、尾根か樹林か、予定していた目的地、目印となる場所からの分
数など)
- 事故発生日時
- 怪我、病気などの容態
- 原因(クマに襲われた、滑落したなど)
- 食料、水、燃料の有無
- 要救助者の人数、氏名
- 救助要請者の氏名、住所
- 連絡手段(携帯電話など、電池の残量も伝える)
- 現場の天候